

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成25年度 技術情報第5号（普通期水稻の海外飛来性害虫）について（送付）

水稻海外飛来性害虫の7月9日時点での発生経過予測を行ったので、今後の防除の参考にしてください。

平成25年度 技術情報第5号

- 1 対象病害虫 セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 飛来及び発生状況等

本年5月27日の九州南部地方の梅雨入りから梅雨明けした7月8日までの水稻海外飛来性害虫の飛来及び発生状況としては以下のとおりで、普通期水稻に影響を及ぼすと思われる主飛来日は6月24～26日とみられる。（表1参照）なお、発生経過予測図は別紙のとおりである。

（1）セジロウンカ

7月1～5日の巡回調査（調査ほ場数：62ほ場）でのセジロウンカの発生ほ場率は73%（平年76%）と平年並みで、最大で平均2頭/株程度の発生が認められたが、発生ほ場の大部分が0.1頭/株未満の発生密度であった。なお、予察灯等での誘殺数が最も多かったのは6月24日であった。

（2）トビイロウンカ

7月1～5日の巡回調査（調査ほ場数：62ほ場）でのトビイロウンカの発生ほ場率は14%（平年6%）と平年よりやや高いが、その発生密度はいずれも0.1頭/株未満であった。なお、予察灯等での誘殺数が最も多かったのは6月26日であった。

これまでのトビイロウンカの飛来量自体は少ない状況にあると思われるが、7月第6半旬～8月第1半旬頃の飛来第1世代成虫の発生（特に短翅型メス成虫）に十分注意し、発生を認めた場合は、飛来第2世代の防除適期（8月17～22日頃）に防除を行う。

（3）コブノメイガ

7月1～5日の巡回調査（調査ほ場数：62ほ場）でのコブノメイガによる被害株の発生ほ場率は4%（平年27%）と平年より低い状況であった。なお、発生経過予測のための起算日は、予察灯等での誘殺数が多かった6月26日と7月7日とした。

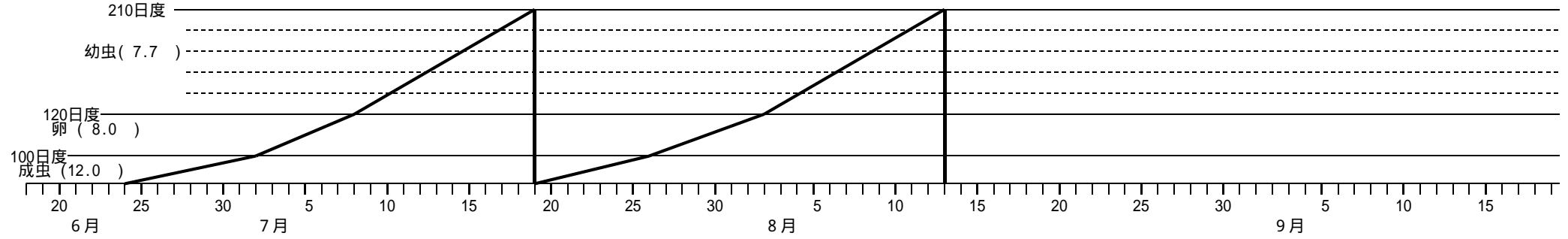
なお、予察灯等のデータは、防除所ホームページ<http://www.jpnpn.ne.jp/kagoshima>に掲載中。

(別紙)

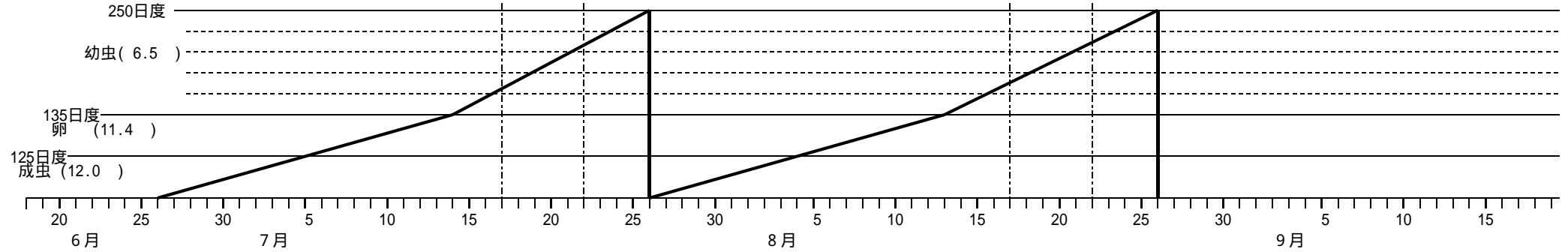
水稻海外飛来性害虫の有効積算温度による発生経過予測図(アメダスポイント:加世田のデータを使用)

2013年7月9日 作成
鹿児島県病害虫防除所

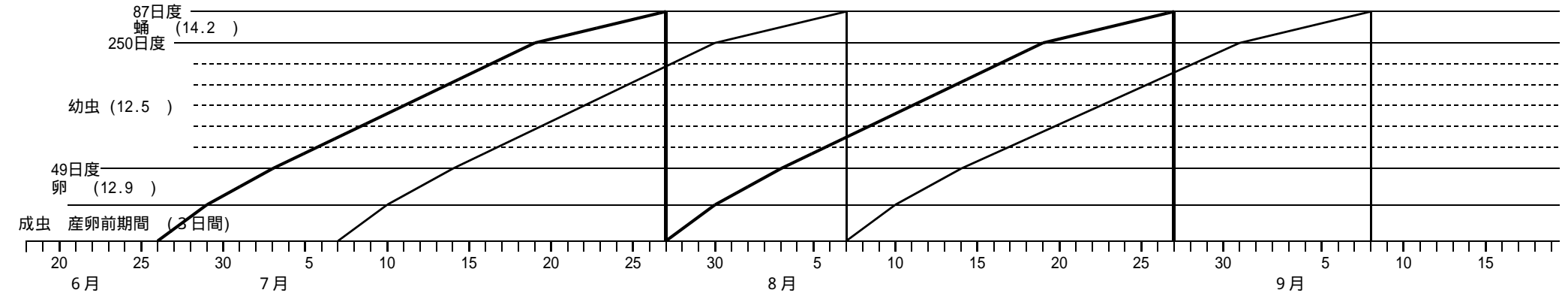
1. セジロウンカ



2. トビイロウンカ



3. コブノメイガ



(注) 気温の低い地域では予測より2~4日程度遅くなる。